

児童いきいき放課後事業 再構築の取組状況について

こども青少年局 企画部 青少年課

児童いきいき放課後事業の概要

【事業の概要及び効果・意義】

【これまでの経過】

参加要件	誰でも参加可能	無料
	<ul style="list-style-type: none"> ● 留守家庭の是非を問わない ● 異学年(1年生～6年生)の参加 ● 支援を要する児童を受入れ 	
活動内容	<p>低学年の8割が利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 登録数 約57,000人(約5,280人) ◆ 利用数 約17,000人(約1,930人) <small>令和7年10月時点、()内は支援を要する児童の内数</small>	
	<p>健全育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 様々な遊びや活動を通して経験を積む 	
環境整備	<p>自主学習の習慣</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 宿題タイム ● 読書活動の充実 	
	<p>市内全市立小学校 283カ所</p>	
	<p>土曜日・長期休業日も実施</p> <p>課題</p> <p>余裕教室の確保</p> <p>支援員の確保</p>	

効果・意義
<ul style="list-style-type: none"> □ 就労支援 □ インクルーシブ □ 貧困対策 □ 子育て負担の軽減
<ul style="list-style-type: none"> □ 自立性、創造性、社会性などを育む □ 低学年のうちから、自主学習習慣の定着
<ul style="list-style-type: none"> □ 子どもを安全に預けられる居場所 □ 就学後に子どもを安心して預けられる居場所

平成4年(1992年)	いきいき事業開始(40カ所)
平成12年(2000年)	市内全市立小学校に拡大
平成14年(2002年)	土曜日の完全実施
平成25年(2013年)	一般公募の開始
	時間延長を実施(利用10人以上～)
平成30年(2018年)	副市長PTによる強化 ・時間延長の実施(利用5人以上～) ・宿題タイムの一斉実施 ・読書活動の充実 など
	いきいき再構築(案)の策定 ・狭隘化対策 ・人材確保 ・時間延長の充実(利用人数要件の撤廃)など
令和5年(2023年)	
令和6年(2024年)	・狭隘化対策(職員の加配) ・人材確保(処遇改善)
令和7年(2025年)	・人材確保(常勤の大幅処遇改善) ・時間延長の充実(利用人数要件の撤廃)

いきいき再構築の取組内容と所要額見込み

			令和6年度		令和7年度		再構築費(百万円)		令和8年度 (案)
			第1フェーズ(早急に必要取組)		第2フェーズ(実効性のある取組)		令和6年度	令和7年度	
①	狭隘化対策	支援員の追加配置	■ 狭隘状況に応じたスタッフ支援員の追加配置 245人相当分増(土曜日は27人相当)		245人相当分増(土曜日は27人相当)		305	317	316
		さらなる活動場所の確保	■ 現地調査及び学校との調整 特に狭隘化が深刻な活動室 27活動室				4	4	5
②	支援が必要な児童等の対応	支援員等の追加配置	■ 問題行動のある児童1名につき2名のスタッフ支援員を追加配置 ■ 医療的ケアが必要な児童の受入れ拡充		■ 1対1対応の拡充		46	317	329
		支援員のスキル向上	■ 基礎的研修の強化 ■ 翻訳機の購入		■ パーソナルケアの巡回指導 ■ 基礎的研修の強化		6	16	16
③	人材確保	支援員の処遇改善等	■ 給与水準の3%引上 ■ 運営管理事業者による支援員募集に係る支援		■ チーフ(常勤)は本市校長OB水準に引上 ■ スタッフ(時間給)は引き続き3%引上		183	1085	1073
④	モバイルの活用促進	入退室等のシステム化	■ 既存のアプリを活用し、入退室管理・一斉周知システム等を導入 (R7.1~試行的導入、R7.4~本格導入)				68	136	85
⑤	活動時間延長の充実	利用人数要件	/		■ 利用延長にかかる利用人数要件(5人)を廃止		-	209	208
		スポット利用			■ 随時(スポット)利用を新設 利用料 1回500円				

【総事業費の推移】

(百万円)

年度(当初予算)	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度(案)
歳出	4,199	4,657	6,111	6,062

合計

612

2,084

2,032

①狭隘化対策（さらなる活動場所の確保）

【現地調査及び学校との調整状況】

①特に狭隘化が深刻な活動室27か所(R5.4) ②特に狭隘化が深刻な活動室10か所(R7.4)

調整状況(令和8年3月時点)		共用室の 確保等
令和5年度	4活動室	
令和6年度	16活動室	
令和7年度	7活動室	

調整状況(令和8年3月時点)		共用室の 確保等
令和7年度	5活動室	
令和8年度 (予定)	5活動室	

特に狭隘化が深刻な活動室の調整が完了した後も、引き続き各活動室の狭隘状況を注視しながら、さらなる活動場所の確保に向けて、現地調査及び学校との調整をすすめていく

→全活動室の調整完了

→令和8年度中に全活動室の調整完了予定

②支援が必要な児童等の対応

【大阪市放課後事業に従事する職員研修】

令和6年度に引き続き、発達障がい等の特性を持つ児童に対する育成支援に関する研修を実施

<受講者アンケート(R8.1~3)抜粋>

- 今日から活かせる内容で、とても有意義な時間だった。
- ロールプレイングが特に分かりやすく、今までの関わり方を振り返る機会となり、とても参考になった。

【児童いきいき放課後事業巡回アドバイザー業務】

令和7年度から、発達障がい等の特性を持つ児童に対する育成支援に関する職員のスキル向上・負担軽減及び児童へのよりよい支援につなげるため、巡回アドバイザー業務を開始

→詳細については、【資料2】参照

③人材確保

【職員数の変遷】

	チーフマネージャー(月額)	チーフマネージャー(日額)	スタッフ支援員	合計
令和5年4月	339人 (+20)	246人 (▲27)	3,462人 (+203)	4,047人 (+196)
令和6年4月	359人 (+20)	219人 (▲17)	3,665人 (+271)	4,243人 (+274)
令和7年4月	379人	202人	3,936人	4,517人
			+455	+454
令和8年1月	381人	199人	4,391人	4,971人

← 月額職員へのシフトが進んでいる。

④入退室等のシステム化

いきいきミマモルメ（入退室管理アプリ）の導入 R7.4～本格導入

【いきいきミマモルメ導入の効果】

携帯からの利用申込や子どもの入退室時刻の確認等が可能に

保護者の利便性向上

<利用者向けアンケート(R7.9)抜粋>

- 携帯から利用申込や利用予定の変更ができるのが有難い
- 利用申込を複数日分まとめて一括登録できるので、紙の連絡帳よりも簡単
- 子どもが活動室を出た時間をアプリで確認できて助かる
- 活動室のお知らせをアプリやメールで確認できるのが便利

【いきいきミマモルメ導入後の課題】

①保護者からの要望





- カスタマーセンターの電話が繋がりにくい。オペレーターの対応を改善してほしい
→システム事業者へ職員配置の最適化や人材育成を指導
- システム登録用WEBサイトが分かりにくい
→システム事業者と協議し、サイトの表記を改修

②現場スタッフからの要望

- 外国につながる利用者向けに、多言語対応を進めてほしい
→システム事業者と対応を検討するとともに、次年度からは、多言語リモート通訳システム【資料6】を活用

⑤活動時間延長の充実

【利用時間延長の活用状況】

	朝延長 8:00～8:30 (長期休業期間中)	夕方延長 18:00～19:00
令和6年度(5名以上で実施)	144活動室  +125	89活動室  +182
令和7年度(1名から実施)	269活動室 	271活動室 

利用時間の延長を実施している活動室が大幅に増えており、利用人数要件撤廃の効果は大きい。

児童いきいき放課後事業の保護者アンケート結果について

令和7年度いきいき保護者アンケート結果

(1) アンケート実施期間 令和7年9月27日～令和7年10月27日

(2) アンケート回答数 16,806名 (回答率29.6%)

(3) アンケート結果

	令和7年度		参考：令和6年度	
	満足	不満	満足	不満
いきいき活動の内容	72.7%	3.8%	77.5%	2.3%
こども同士の間関係	65.6%	4.4%	72.1%	3.2%
支援員のこどもへの対応	69.3%	7.1%	75.2%	4.3%
活動室の施設・設備	55.6%	11.7%	63.8%	8.5%
4項目集計	65.9%	6.7%	72.2%	4.6%